

安曇野民報ほりがね

やすひこ

## うすい泰彦通信

## 9月議会報告

## 一般質問

科学的見地に立ったPCR検査で

## 感染防止と経済活動の両立を

未だに高いレベルで感染がくすぶり続け、一向に先が見えない新型コロナウイルス感染症。白井議員は一般質問で、科学的見地に立ったPCR検査の実施により、感染防止と社会・経済活動の両立を図るよう市が国に働きかけることなど、コロナ対応について質しました。

〔9月議会の概況は、日本共産党安曇野市議員団ニュースNo.49をご覧ください〕



## 感染震源地を明確にした検査を

白井 感染対策は、①宿主の免疫をつける ②感染経路を絶つ ③感染源をなくすの3つしかない。

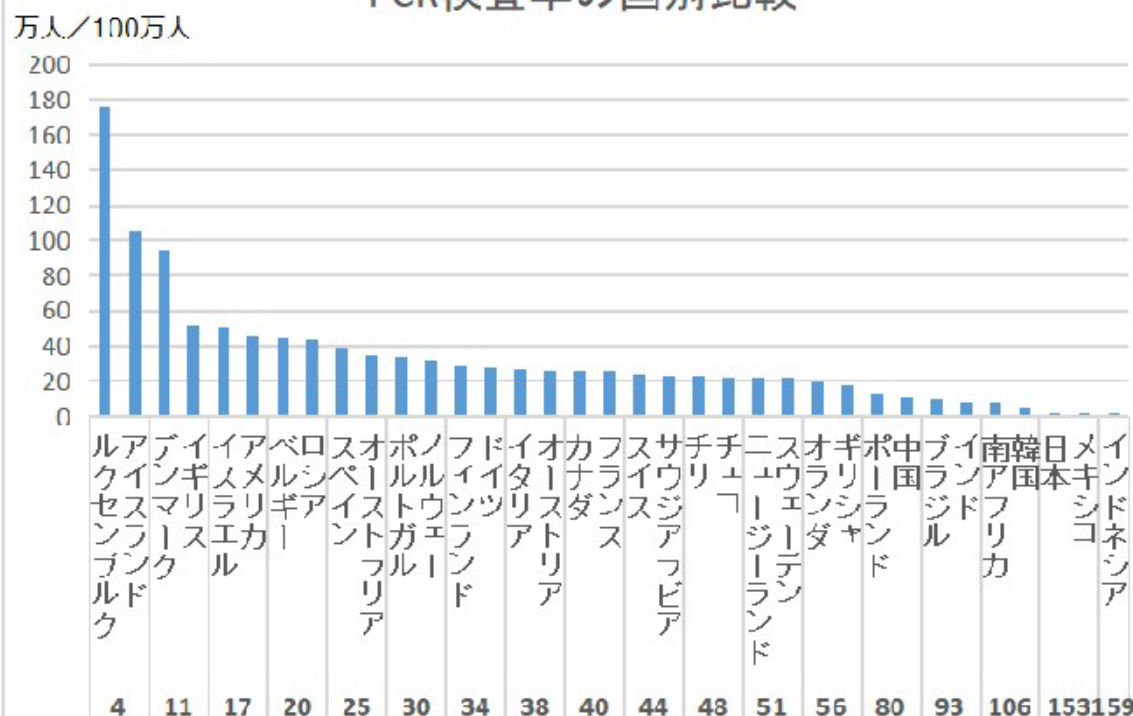
①は、ワクチンの開発を待たなければならない。②は、国民みんなが3密を避け、マスク、手洗いを一生懸命やっている。③は、検査をして感染者を隔離し、治してもらおうことだ。③のPCR検査率、日本は世界で150番(台)の低さだ。日本は発症者とその濃厚接触者の検査に留まっているためだ。「感染震源地(感染者の4割の感染元と言われている無症状感染者が集まる中で、感染が持続的に集積している地域)を明確にして、その



地域の住民と事業所の在勤者の全体に対するPCR検査(以下「検査A」)を実施し、感染者を隔離・保護し、感染拡大を抑

止すべきだ。アメリカの感染震源地といわれたニューヨーク州は、安曇野市の人口に近い10万人当たり延べ3万2500人に検査をしたという。クオモ知事は「我々ができる唯一のことは検査を行うことだ」と言っている。政府の姿勢は、地方で(次頁へ)

PCR検査率の国別比較



OECD36カ国とG20の内35カ国について、データのある198カ国のPCR検査率(100万人当たりの検査数)の順位(数字は、数字の上の2国の内左の国の順位)。日本は21,878人で153位。(2020年11月5日現在Worldometerより作成)





## 政府も変化

厚労省は8月7日「地域の関係者の幅広い検査が可能」と通知。8月18日医師国会議員の会の要請に、加藤厚労相は「保健所、自治体の判断で、やってもらいたい」と答えた。8月28日政府の対策本部が「感染者の多数発生地域やクラスターの発生地域では、地域の関係者の幅広い検査が可能」とし、都道府県に積極的な検査の実施を要請するとした。

## 専門家は“感染震源地への検査を”

7月16日参議院予算委員会で、東京大学先端科学技術研究センターがん・代謝プロジェクトリーダーの児玉龍彦氏は、感染震源地の制圧には1日20万人以上のPCR検査が必須だと主張した。7月30日東京都医師会が感染震源地への徹底検査を求めた。感染が拡大した那覇市では、8月初め市内有数の歓楽街松山地域で2000人超の大規模PCR検査を実施した。8月5日には日本医師会COVID-19有識者会議が無症状の感染者を含む検査体制の確立が必要と提唱した。

実施された検査や専門家の声によって変わってきている。左梓 専門家は：「政府も変化」参照）しかし国は、依然として自治体任せだ。市

としては、全国市長会を通して、また県とともに、検査Aの実施を国へ要望すべきではないか。市長 今後、検査件数が拡大をしても、適度に検

## 医療、介護施設等への検査 各地で

厚労省は、8月18日医療・介護現場もしっかり検査をするよう通知を出した。

9月4日町立国保軽井沢病院では、3人の入院患者がコロナに感染したので、200人の検査をするという。県内の幾つかの病院関係者が、感染リスクが高い場所との往来や人との接触がある患者を手術する際も検査するよう対象拡大を検討中とか、感染しても無症状の人が救命救急センターに搬送され、入院すれば院内感染のリスクがある。疑いのある人にランプ法



による検査をしているが、対象を大幅に広げるのは難しいと強い不安を訴える記事があった。

世田谷区では、医療・介護関係者への社会的検査を進め「誰でもいつでも何度でも」を目指している。

千代田区でも、全介護施設的全職員にPCR検査を行うとしている。

## リスクの大きい施設に 対する定期的な検査を

白井 感染の恐怖を抱え、風評被害、心身のストレスに直面して働く医療機関、介護施設、福祉施設、保育・幼児教育の現場、学校など社会的に欠かせない役割を担う施

設では、集団感染によるリスクが非常に大きい。その機関の勤務者、入院・入所者、出入り業者も含めて一斉に定期的な検査（以下 検査B）を実施して、施設の閉鎖

查が受けられるように、圏域内で体制整備してきたい。（国へ要望すべき）の質問には答えなかった）

白井 感染震源地から全国に広がる。そこを指定し、国が財政支援をしてこそ効果がある。しっかりと国に要望すべきだ。

を招かないことが必要だ。実施例は、左の医療、介護施設等への検査各地で）以下について伺う。

①検査Bの必要性は。

②定期的な検査Bをするために、松本医療圏の現在の検査能力は。

③定期的な検査Bを行うために、検査体制のあるべき目標は。

④検査Bによる陽性者を隔離・保護・治療するための体制の現状は。

⑤ ④の体制づくりを国や県にしっかりと要望すべきだ。大変な状況にある医療、介護現場への財政支援が必要ではないか。

## 保健医療部長

①必要な地域では既に実施されている。体制整備を整えている。全員に公費で定期的な検査をすることは、現在困難だ。②③県が10の医療圏ごとに外来検査センターの体制整備中だ。国も検査を拡充すると言っている。④350名程度の病床と250名程度の宿泊施設を確保した。⑤8月29日の国の方針を受けて県の新目標も示されると考える。市として県の動きを注視したい。



## 営業を守るためにPCR検査を

**日井** 検査Aにより陽性者を隔離・保護すること、地方への感染拡大を防ぎ、より安心して都市部から人を迎えることができる。観光客など市内経済活動にプラスとなる。検査を行わないままでは、10月からのG・T・トラベルは、全国に感染を広げる恐れがある。

厚労省データでは、日本で新規感染者が減少した5月と8月中旬以降検査の数も減らされ、無症状感染者から感染が継続、また次の波が来る悪循環に陥っている。感染は何度も山を繰り返すの

が当然という政府の立場だと、安曇野市を含む地方経済は、感染の山が来る度に疲弊してしまう。

検査AとBを抜本的に増やすことが、安曇野市の経済にとっても必要と考えるがどうか。

**商工観光部長** PCR検査の実施は、感染拡大を防止するために重要であるが、検査はその時点の状況を把握するものだ。ワクチンあるいは治療薬の

## 恐怖や不安を少なくするためにPCR検査を

**日井** 新型コロナに係る差別や偏見は、感染の恐怖や不安と、科学的な知見と冷静な思考がないことによって生まれる。恐怖や不安を少なくするためにも、検査A・Bにより感染力のある陽性者を隔離・保護・治療すべきではないか。

**総務部長** 検査を拡大すれば、不安が解消し、差別、偏見の解消につながることにについては、様々な意見があり、私どもは

北海道大学の研究グループは、唾液のPCR検査は、感度（感染者の内、検査で陽性とされる割合）は83.9%、特異度（陰性者の内、検査で陰性とされる割合）は99.9%以上で信頼できるとした。今年9月28日



開発が待たれる。

そう考えていない。市として適切な検査体制を整え、正しい情報と感染防止のための取組を市民に伝えていく。

**日井** 検査は、恐怖や不安を少なくする上で必要ではないかと聞いている。

**総務部長** 検査をしてもコロナの感染対策につながるものではない。

※「不安を少なくする」

を「不安が解消し」と質問内容を変える答弁をしたので再質

問をしたが、訂正はなかった。

## 差別や偏見を許さない啓発活動を

**日井** 新型コロナに係る差別や偏見を生まないために、さらに分かりやすい啓発活動を継続的に行うべきと考えるが。

**総務部長** 市のホームページの「大権について」で感染者、濃厚接触者、医療従事者に対する差別や偏見は許されないことを掲載している。

広報あづみの中では、感染者等に対する偏見は許されないこと、誰もが感染する可能性があることから、正確な情報に基づき冷静に判断し、差別的な発言に同調しないこと、被害者の相談窓口も知らせている。

差別防止のチラシを公民館などに配置し、地区保護司会、松本人権擁護委員会協議会安曇野部会等と連携して移動人権啓

発展を行っている。今後とも啓発活動を展開する。

## 新型コロナウィルス対応 子どもの状況は

**日井** 長期の休みと感染症対策、学校行事の中止・縮小等により、大きな影響があったと思われる子どもへの対応は。

**教育長** 児童生徒は落ち着いて、前向きに学習に取り組む、影響は特に感じていない。

一人一人の心や体の変化に常に気を配りながら、気持ちの安定を図るよう努めている。

子どもや保護者がいつでも相談できる体制を整えている。

## 学校行事の変更 子ども・保護者の意見反映は

**日井** 子どものアンケートを取ったところ、学校行事について・減らしてほしくない・中止にしないでほしい・親にも見に来てほしいと希望している。中止に至る過程や計画作成の過程で、子どもや保護者の意見はどのように反映され、検討結果は子どもや保護者にど

のように説明されているのか。

**教育長** 修学旅行については例えば、1学期早々から検討を重ねてきた。児童生徒や保護者の思いを直接またはアンケートなどで聞き取り、学校が児童生徒や保護者との話し合いを尽くして判断している。

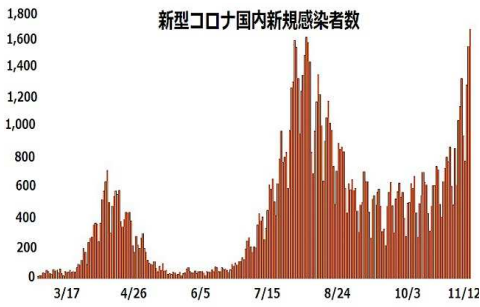
特別定額給付金事務 堀金公民館の使用期間は適当だったか

**日井** 公民館施設は6月から使用が再開されたが、堀金公民館会議室1は7月18日まで使えなかった。7月初めから、申請書の受付件数も給付金の振込件数も1日当たり2桁になっていたが、使用期間は適当だったか。

**福祉部長** 利用期間は適切だった。



新型コロナ国内新規感染者数





## 学校給食センター市民説明会 延べ200人が参加 堀金学校給食センターを残して！4センター維持を！

この10月、市内5か所で計6回給食センター市民説明会が開かれました。昨年5月の市民説明会での質問・意見を受けたものでしたが、市教育委員会は、昨年に続き多くの市民から出された「堀金給食センタ



ーを廃止せず自校給食の伝統・安曇野市の宝を守ってほしい」の声より経費節減を優先する姿勢に終始しました。

### 今年の説明会でも「堀金給食センターを残して」の声、声、声



**堀金給食センターの〇〇をなくさないで！**

○給食職員との触れ合いがなくなるのは残念で悲しすぎる。子どもは栄養で育っているだけじゃない。○堀金で調理員をしていて、子どもの顔が見れて楽しかった。豊科のセンターへ異動してから子どもの顔を1回も見なかった。○堀金では調理員が行事にも参加した。子どもは、お母さんが作ったものと同じような気持ちで食べていたのではないかと思う。○農家の顔が見える本当の食育をしてきた。廃止してそういうことが残せるとは思えない。○地産使用率は堀金給食センターが一番高い。農業者として他のセンターではできないと

思う。○堀金は、子どもと調理場とが互いに生で顔が見え、日々やり取りができ、五感で感じることができる。失ったらとり返しがつかない。○数字に表れない、子どもが給食で育つことを真剣に考えてほしい。○血の通った交流は日ごろから顔を見てないとできない。

**自校給食だから保護者は安心**

○諏訪市から堀金に来てがっかりした。諏訪市は全校自校方式で安心感がある。諏訪市長は「市民を減らさない。新しく呼び込む」と言って、お金はないが食べ物にお金をかけている。○堀金に住むようになって、子ども



が給食を「おいしい」と言う。子どものアレルギーが治った。なくさないでほしい。

**安曇野市の自慢に**

○市として「自校方式を一か所持っている」と自慢していい。○給食で堀金移住を選んだ。市をPRするには、残すべきだ。○夫が堀金が好きで、いい所と思って引っ越してきたが、こんな所とは思わなかった。給食センターがなくなったら、子どもに「ごめんね」となんで謝らなければいけないのか。おいしい水や空気だけでは子どもは育たない。子どもが外に出て「戻ってきて」と言えない。○子どもが増えるには、子どもに優しい地域づくりが大切。○大切なものを残せる大人でありたい○他市から来て、子どもにお金をかけない安曇野市に驚いている。



**自校給食は地域が支えてきた伝統**

○建設計画当時のPTAは、従来通り「自校給食がいい」とセンター化に反対したが、それでは合併後に自校給食が残せないと言われた。○先輩から引き継いだ自校給食、歴史的教育文化、貴重な財産、宝物をぜひ残してほしい。○堀金物産センターは、食材納入を無料奉仕でやってきた。○堀金村は、教育にいくらお金がかかっても「いや」と言わなかった。子どものことを考えて、本当に活かしてほしい。○子どもの将来のために教育が第一である。考える順序が違う。教育予算は最後に削るべき。増額するくらいにすべき。○自校給食は地域が支えてきた伝統だ

倒されたリンドウの高密植栽培木



上げた。お見舞い申し上げます。

農家に回り、被害状況を見て、被害を被った議員は、日本共産党の両角県

境の地域に突風と降ひょうがあり、高密矮性リンドウの木が倒され、ハウスがつぶされるなどの被害がありました。臼井議員は、日本共産党の両角県

**堀金・三郷に突風・降ひょう被害**

8月22日、堀金と三郷



総務部長に手渡した。項目の87年度予算要求を出した。

日本共産党安曇野市議団は、11月6日、市長に

**市長に予算要求提出**

対してコロナ対応など、